

1 小学校社会科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 問題解決的な学習の充実

① 見通しを立てたり振り返ったりする学習活動の重視

- ・ 「見通す・振り返る」学習によって、「主体的に学習に取り組む態度の育成」「学習内容の確実な定着」「思考力・判断力・表現力の育成」に資することができる。

〈「見通す」学習活動とは〉

「見通す」学習活動とは、社会的事象に関心を持って学習問題をつかみ、予想や学習計画を立てる学習活動のこと。

子供が学習問題をつかみ、社会的事象に関心を向けるためには、教材研究を通して、子供に提示する具体的な事実を絞り込み、疑問が生まれるようにして、学習問題の設定につなげることが大切である。

学習計画は、「学習問題に即して調べて予想を確かめる計画」といえる。この計画がないと、子供が学習の連続性を自覚できず、1時間ごとに教師の発問や指示によって活動するだけの授業になってしまう。

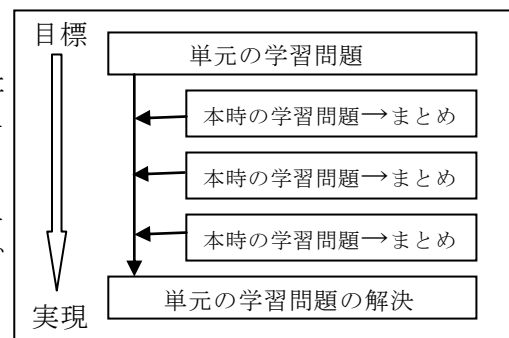
〈「振り返る」学習活動とは〉

「振り返る」学習活動とは、調べたことを地図や年表、図表などにまとめ、社会的事象の特色や意味などを考察する学習活動のこと。

調べたことをもとに、社会的事象の特色や意味を考察する活動では、全体として何が言えるか(社会的事象の特色)、そのことは私たちの生活にとってどんな意味があるか(社会的事象の意味)などを、「比較」「関連付け」「総合」などの思考方法を使って考察する。

② 子供の気付きや疑問を生かす学習問題の設定

- ・ 子供が社会的事象に関心を向けるためには、教材研究を通して、子供に提示する具体的な事実を絞り込み、疑問が生まれるようにして、そこから学習問題の設定につながる工夫をする。
- ・ 大きな(単元を貫く)学習問題を解決するために本時の学習課題を解決していくような仕掛けを作る必要がある。



③ 協働(同)的な学習スタイルの確立

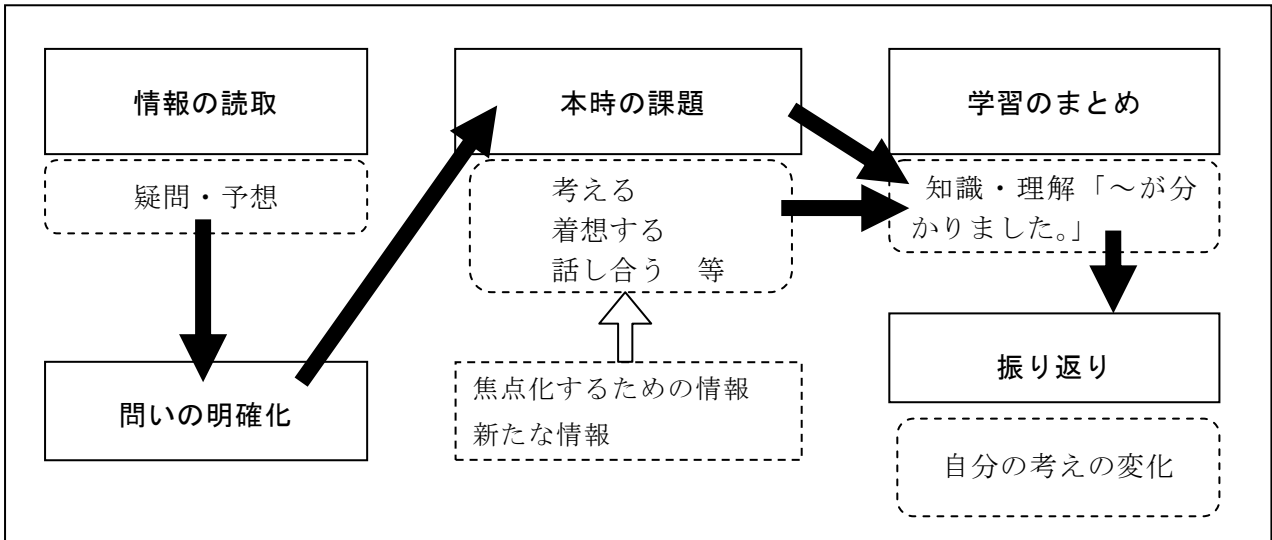
- ・ 子供が調べた情報をもとに、比較、関連付けなどを通して社会的事象の意味を考えるためには、「協働(同)的な学習スタイル」の確立が大切である。
- ・ 協働(同)的な学習スタイルの確立のためには、友達に分かりやすく説明するためのルールづくり、グループやクラスで意見を交換するための話し合うスタイルの確立が必要である。さらに、子供同士の発言をつなぐ、教師の役割が重要である。

④ ノート指導について

- ・ 子供が、問題解決的な学習に取り組み、調べたり考えたりしたことを基に、自分の考えを持つためには、ノート指導が不可欠である。

(例)「今日の学習課題」「自分の予想・疑問」「資料から考えたこと」「友達のかえ」「学習問題のまとめ」「振り返り」など

<板書から見る授業の構造例>



(2) 学習指導要領の読取方等について

① 単元について

- ・ 単元とは「内容・学習経験のまとまり」、問題解決の一連の流れを、教師が工夫して構成するものである。
- ・ 単元のイメージを持つために、学習指導要領を丁寧に読み取る。

② 構造図について

- ・ 構造図は、子供が見通しを持つために大切。
- ・ どの構造図でも、柱は学習指導要領。(学習指導要領では、無限にある社会的事象から学ぶ範囲の枠組みを示していることを押さえる。)

③ 内容について

- ・ 内容では、「考えるようにすること」を番号で、「考える手掛かり（調べる対象）」はア～ウで示している。「調べる対象を手掛かりとして、～を考えるようにする」（例：アを手掛かりに（1）を考えるようにする）という構造になっている。
- ・ 調べる事実は、教師が考えて設定する。
- ・ 内容のア～ウを見て教材を考える。教材とは、子供と学習内容をつなぐ素材群。教材を目に見える形に具体化したものが資料。
- ・ 事例を通して社会的事象を見る。事例を通して社会的事象の意味を考える。見えるものをしっかり調べて、見えないものを解釈して考える。
- ・ 体験、調査、資料活用を通して、「それらが何のために行われて」「それに関わる人にどんな願いがあるのか」「どんな願いが実現されているのか」という事実をつかませ、得られた解釈する手掛かりを基に、具体的な言葉を自分で獲得して解釈させるようにする。

2 単元の目標と評価規準について

- ・ 単元の目標は、複数の内容と学習活動を踏まえて達成される。そのため、単元の設定をする際に、その目標に向かうことを常に意識する必要がある。
- ・ 目標に向けて評価規準を作成することで、内容と学習活動の全体イメージが見え、単元の全体像を把握できるようになる。

